

1. 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：平成30年10月18日（木）～10月31日（水）まで

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

いばらきネットモニター数：377（県内モニターのみ）

回収率55.2%（回収数208名）

回答者の属性（百分率表示は小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある）

		人数（人）	比率（%）
全体		208	100.0
性別	男性	103	49.5
	女性	105	50.5
地域	県北	23	11.1
	県央	75	36.1
	鹿行	13	6.3
	県南	71	34.1
	県西	26	12.5
年齢	10歳代	0	0
	20歳代	7	3.4
	30歳代	33	15.9
	40歳代	44	21.2
	50歳代	55	26.4
	60歳代	34	16.3
	70歳以上	35	16.8
職業	自営業	12	5.8
	会社員	65	31.3
	団体職員	5	2.4
	公務員	2	1.0
	主婦・主夫	53	25.5
	学生	3	1.4
	無職	41	19.7
	その他	27	13.0

(2) 調査目的

県では、子どもたちの健やかな成長のために、里親制度（※）を積極的に推進しており、今後の取組の参考資料とするため、アンケートを行うものです。

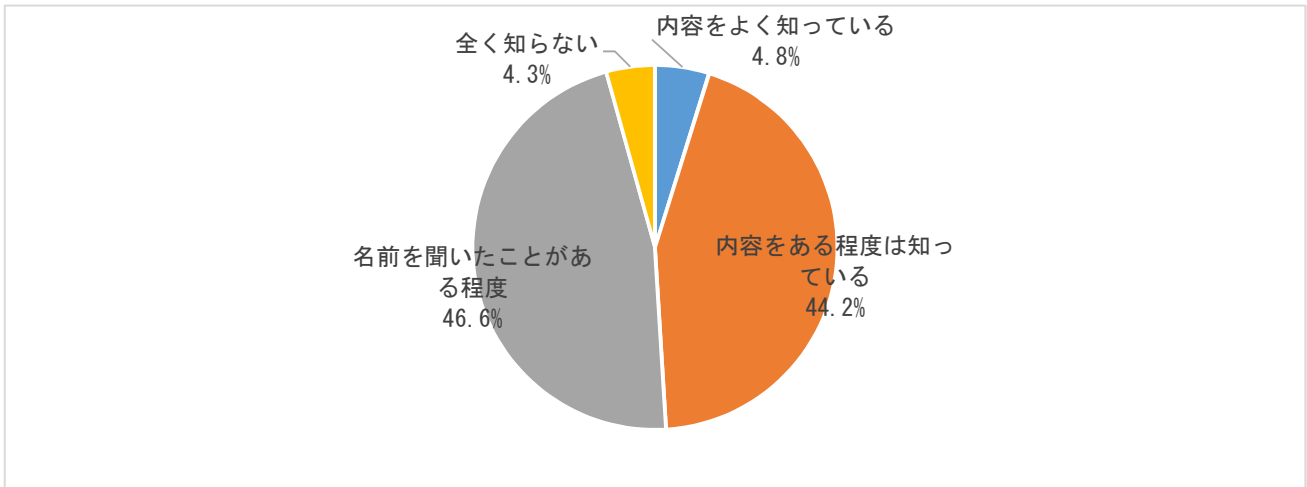
（※）※里親制度は、さまざまな事情により家庭での養育を受けることができない子どもたちを、里親さんの家庭において、温かい愛情と家庭的な雰囲気の中で養育していただく制度のことです。

担当課 茨城県保健福祉部子ども政策局青少年家庭課

電話：029-301-3258 E-mail：jifuku1@pref.ibaraki.lg.jp

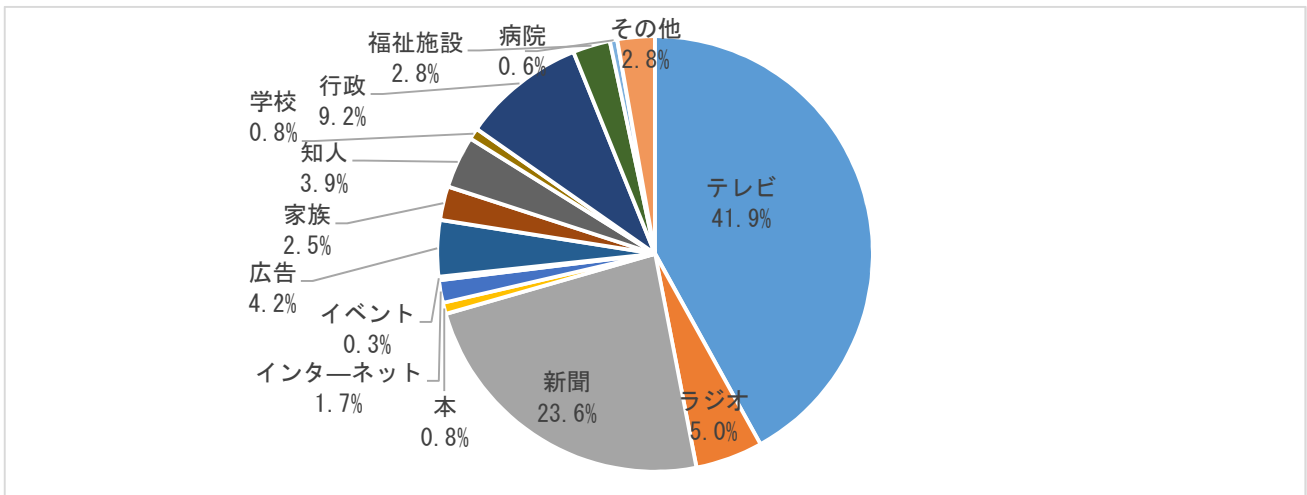
2. 調査結果

【問1】あなたは里親について、どの程度知っていますか。



◆「内容をよく知っている」との回答は4.8%、「内容をある程度は知っている」との回答は44.2%であり、認知度は高いとは言えない。

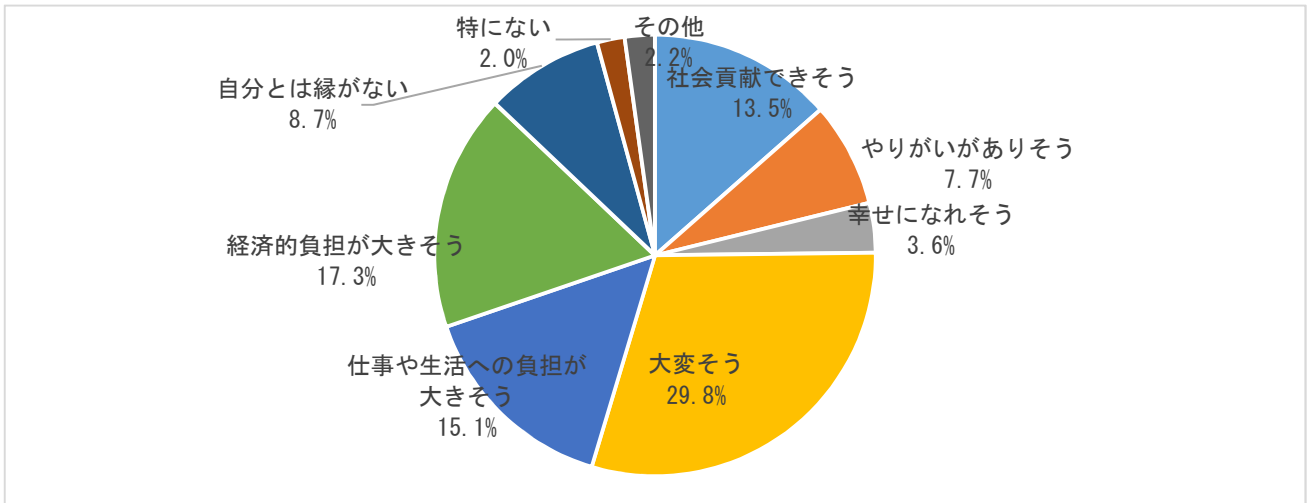
【問2】（問1で「1 内容をよく知っている」「2 内容をある程度は知っている」「3 名前を聞いたことがある程度」とお答えになった方にお伺いします。）あなたは、里親のことを何を通じて知りましたか。次の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



◆里親のことを何を通じて知ったかについては、「テレビ」（42.9%）が最も多く、「新聞」（23.6%）、「行政」（9.2%）、「ラジオ」（5.0%）、「広告」（4.2%）、「知人」（3.9%）などが続く。

「その他」（2.8%）では、「twitter」などの回答があった。

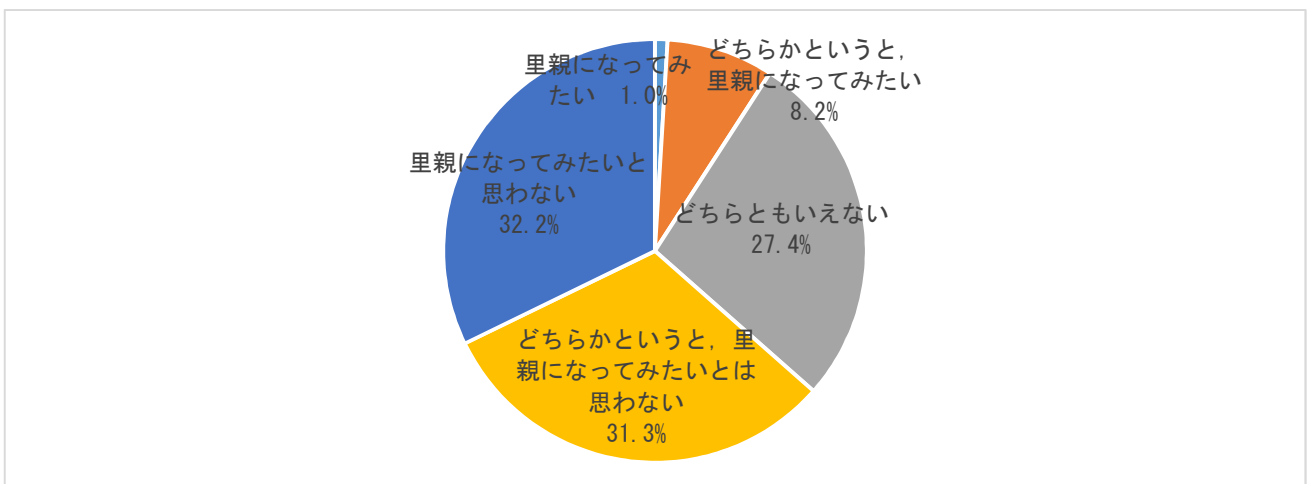
【問3】あなたは、「里親」という言葉を聞いた時に、どのようなイメージを持ちますか。あてはまるものすべてを選んでください。



◆「里親」についてのイメージは、「大変そう」(29.8%)が最も多く、「経済的負担が大きそう」(17.3%)、「仕事や生活への負担が大きそう」(15.1%)、「社会貢献できそう」(13.5%)、「自分とは縁がない」(8.7%)などが続く。

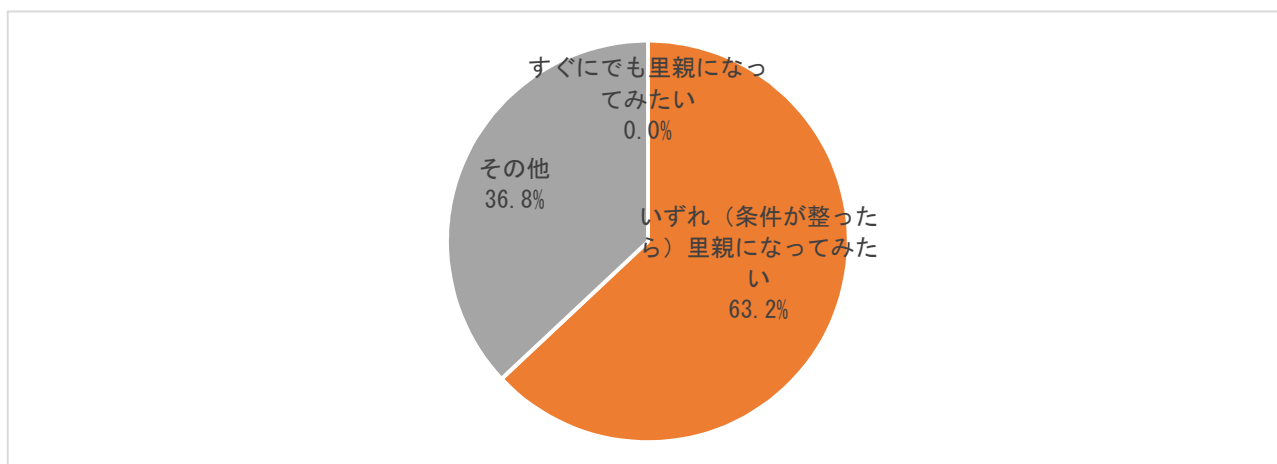
「その他」(2.2%)では、「自分がやるとしたら不安」、「子どもとのコミュニケーションがしっかりとれるかどうか」などの回答があった。

【問4】あなたは、里親になってみたいと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つを選んでください。



◆「里親になってみたいと思わない」(32.2%)、「どちらかという、里親になってみたいとは思わない」(31.3%)を合わせて、6割を超える結果となった。

【問5】（問4で「1 里親になってみたい」「2 どちらかという、里親になってみたい」とお答えになった方にお伺いします。）あなたは、どのような時期に里親になってみたいと思いますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んでください。



◆どのような時期に里親になってみたいかについては、「いずれ（条件が整ったら）里親になってみたい」（63.2%）が最も多く、「その他」（36.8%）が次に続く。「すぐにでも里親になってみたい」は、0%であった。

「その他」（36.8%）では、「よく理解して準備を整えてから」、「経済的に余裕があれば考えたい」などという回答があった。

【問6】(問4で「4 どちらかという、里親になってみたいとは思わない」「5 里親になってみたいとは思わない」とお答えになった方にお伺いします。) 里親になってみたいと思わない理由をお聞かせください。[自由記述, 50字以内] 132件

(主な意見)

- ・ 毎日仕事と実母の介護をしているので、時間的余裕がなく、状況的に厳しい。
- ・ 独身である。
- ・ 実子がいる。
- ・ 里親として受け入れた子どもをしっかりと育て上げる自信がない。
- ・ 経済的余裕がない。
- ・ 自分の子どもを育てるだけでも経済的負担が大きく、簡単には受け入れられないと思う。
- ・ 虐待を受けたなどの子どもを無事に育てるためのスキルがない。
- ・ 血縁の無い子どもに愛情をかけるのは難しい。
- ・ 高齢であり里親になることに不安がある。
- ・ 血のつながりのない子どもを育てることは、意欲や同情ではできない。
- ・ 子どもへの説明が難しい。

【問7】その他、里親に対するご意見等がありましたら、ご記入ください。

[自由記述, 100字以内] 81件

(主な意見)

- ・ テレビや新聞などで里親制度のことを知る機会があり、大切な子どもを養育するのは責任が重いと感じている。
- ・ 同性のカップルが里親になったケースが大阪であった。そういったマイノリティな方々の里親希望者にも是非門戸を開いていただきたい。
- ・ 里親制度について知らないことが多いので、もっと広報活動をしてほしい。
- ・ 里親のことを学校で教えてほしかった。子どもたちからその制度や言葉などに親しむことができ、より偏見をなくすことができると思う。
- ・ 里親は、大変なので、手厚く、多くの補助をしてほしい。
- ・ 子育てが得意だと自負する人の職業として里親(職業里親)があればいいと思う。
- ・ 産んだけれど育てられない親と、育てたいけれど授からない夫婦がいる社会で、里親制度がうまく機能して幸せな子どもをたくさん育てていけるようにしてほしい。
- ・ 里親もそうだが、乳児期での特別養子縁組も強く支援すべき。
- ・ 現在、不妊治療中で、このまま授からなかったら里親を検討したい。